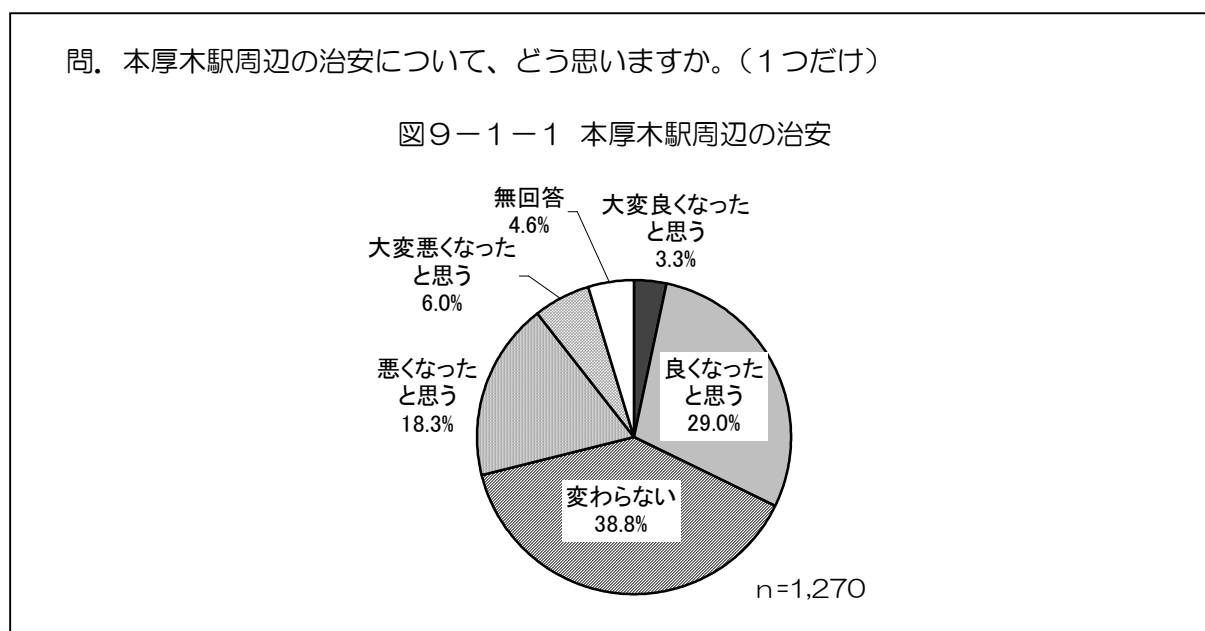


9 交通・安全・防災

(1) 本厚木駅周辺の治安 (A: 問 16)



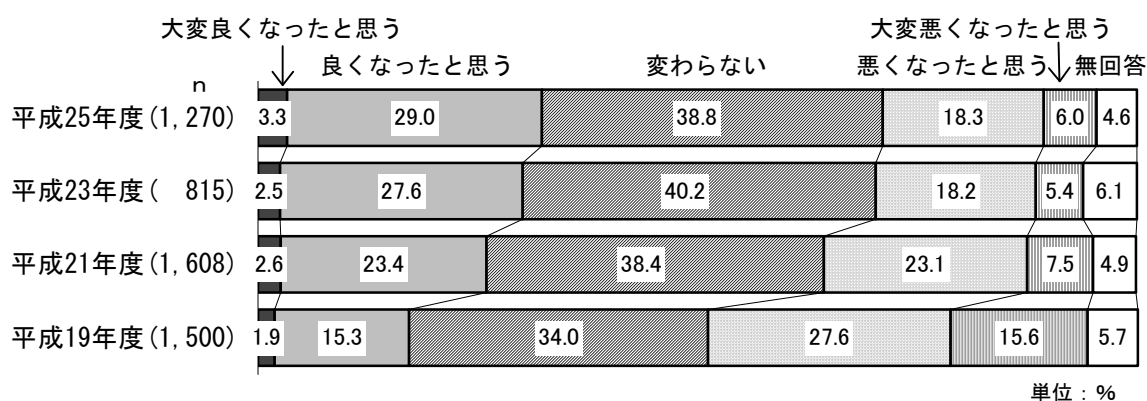
【全体】

本厚木駅周辺の治安について聞いたところ、「大変良くなったと思う」(3.3%)と「良くなったと思う」(29.0%)を合わせた『改善派』(32.3%)が全体の3割程度となっている。一方、「悪くなったと思う」(18.3%)と「大変悪くなったと思う」(6.0%)を合わせた『悪化派』(24.3%)は、2割程度となっている。

【経年変化】

経年による変化を見ると、引き続き『良くなったと思う』との回答が増加するなど『改善派』が増加傾向にあり、平成19年度調査に比べ、今回の調査結果では、15ポイント以上増加している。

図9-1-2 本厚木駅周辺の治安—経年変化

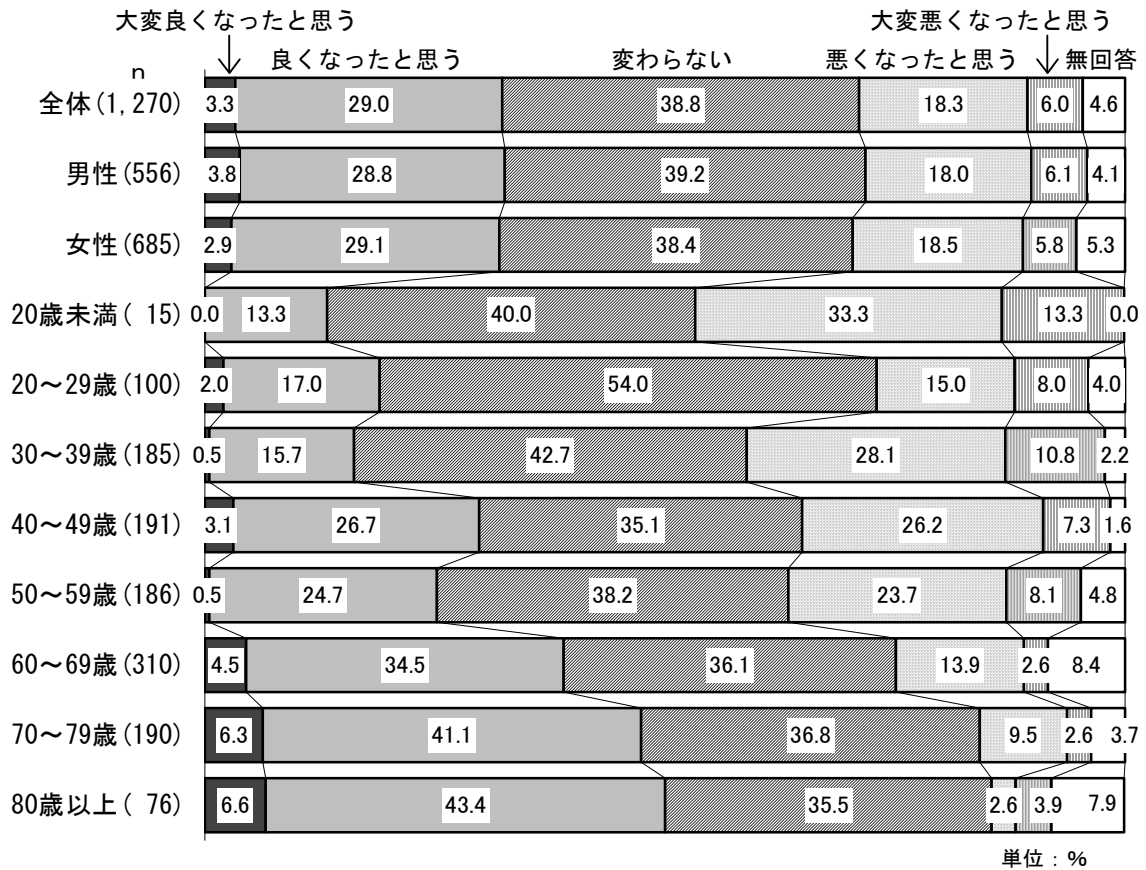


【属性別】

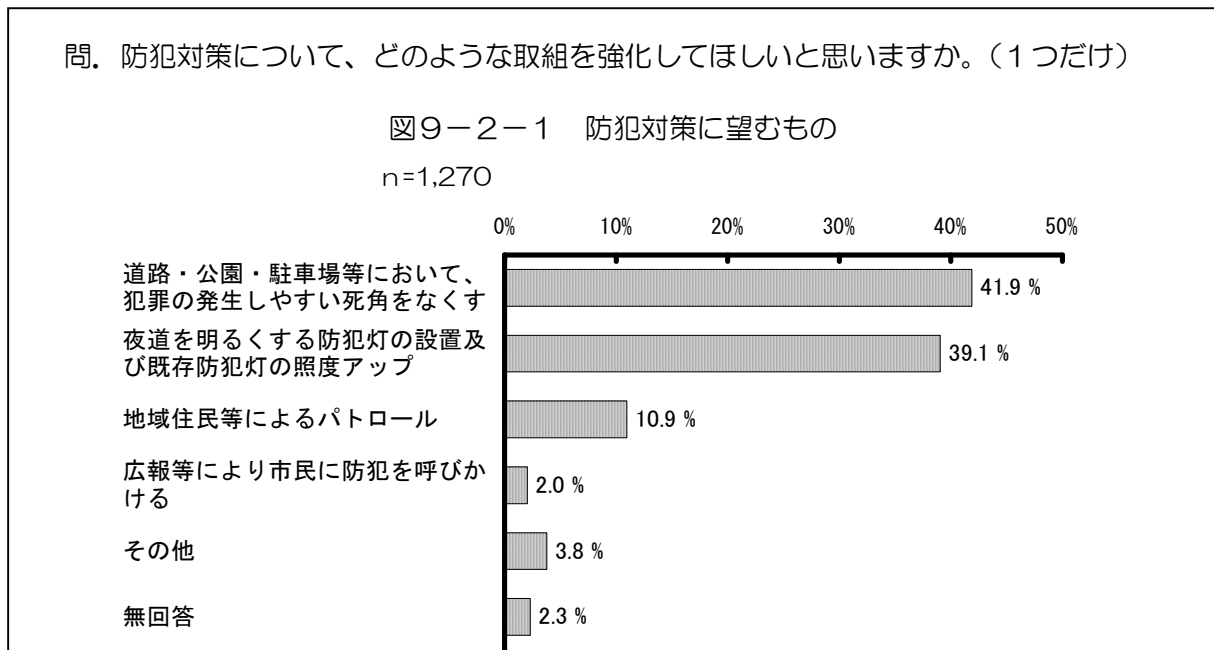
性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、60歳以上では『改善派』が3割を超え、全体と比べて高い結果となり、59歳以下では、『悪化派』が2割を超え、全体と比べて高い結果となっている。

図9-1-3 本厚木駅周辺の治安—性別、年齢別



(2) 防犯対策に望むもの (A: 問 17)



【全体】

防犯対策に望むものについて聞いたところ、「道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす」(41.9%)が4割を超えて最も高くなっている。次いで、「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(39.1%)、「地域住民等によるパトロール」(10.9%)となっている。

【経年変化】

経年変化は参考に記載するものとする。

表9-2-1 防犯対策に望むもの

	平成 25 年度 (n=1, 270)	平成 23 年度 (n= 815)	平成 21 年度 (n=1, 608)	平成 19 年度 (n=1, 500)
道路・公園・駐車場等において、犯罪の発生しやすい死角をなくす	41.9	70.7	72.7	67.1
夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ	39.1	60.0	76.2	77.3
地域住民によるパトロール隊の組織化	10.9	38.7	39.6	40.3
広報等により市民に防犯を呼びかける	2.0	15.7	21.0	22.3
その他	3.8	6.1	5.8	9.1
無回答	2.3	2.2	2.2	2.5

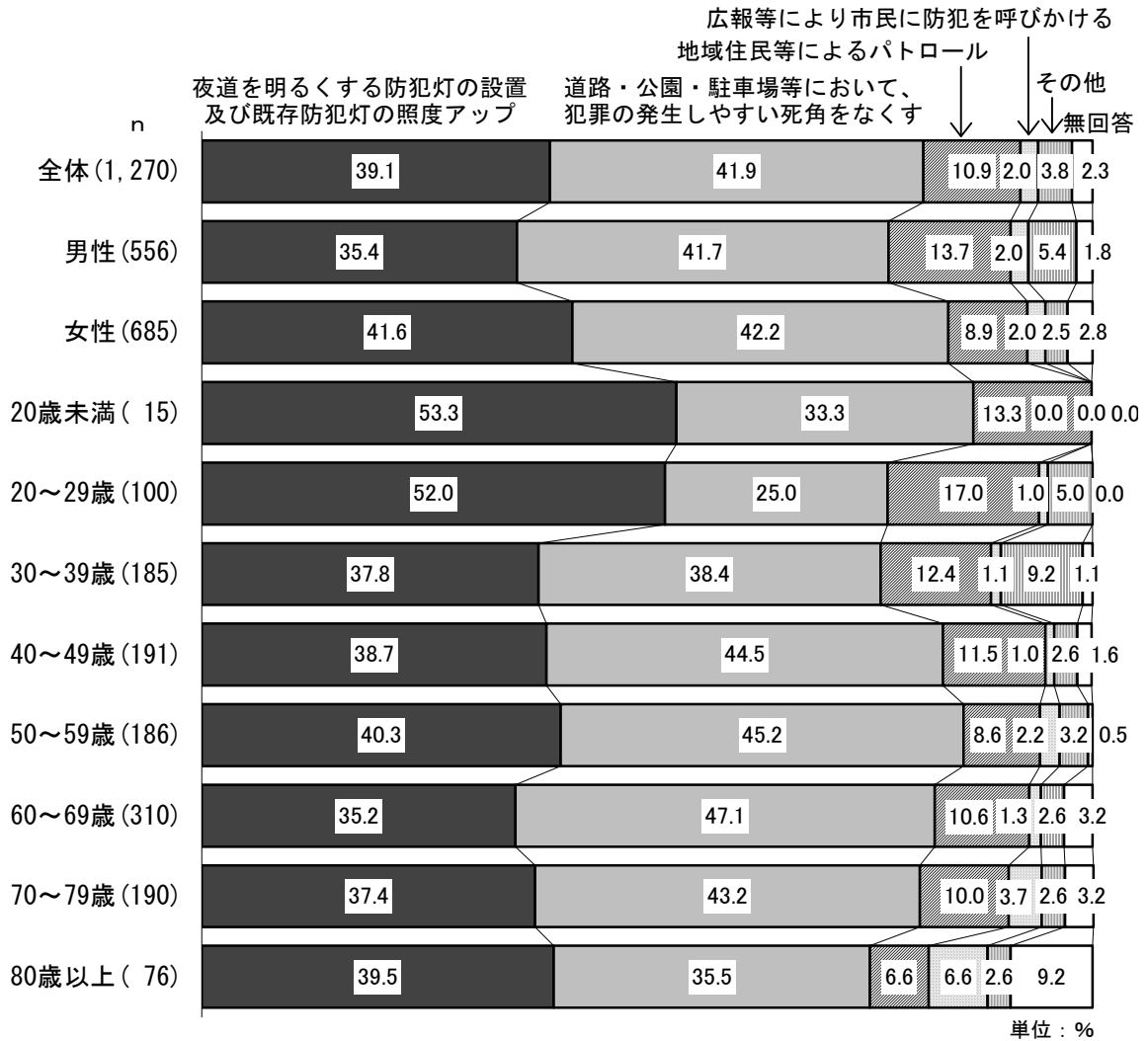
(注) 過去の調査では複数回答で聞いたが、今回調査は単数回答となっている。

【属性別】

性別で見ると、女性では「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」(41.6%)で男性よりも6.2ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、特に29歳以下では「夜道を明るくする防犯灯の設置及び既存防犯灯の照度アップ」が半数を超えて高くなっている。

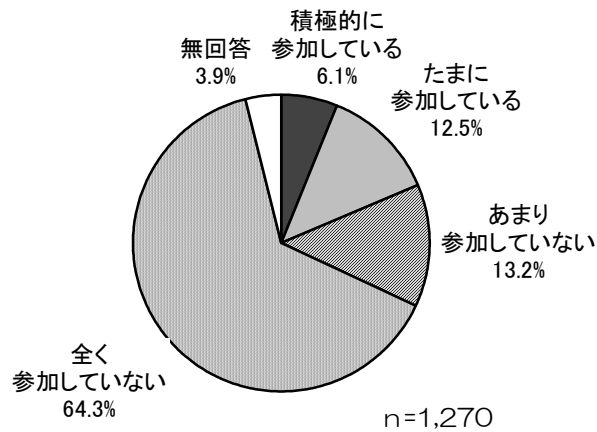
図9-2-2 防犯対策に望むもの一性別、年齢別



(3) 地域の防犯活動（A：問 19）

問. 安心・安全なまちづくりの一環として、地域で実施している「防犯パトロール」や「児童・生徒の登下校時の見守り活動（愛の目運動）」などの活動に参加していますか。（1つだけ）

図9-3-1 地域の防犯活動



【全体】

地域の防犯活動への参加について聞いたところ、「積極的に参加している」（6.1%）、「たまに参加している」（12.5%）、「あまり参加していない」（13.2%）を合わせた『参加』（31.8%）は、全体の約3割となっている。

一方、「全く参加していない」（64.3%）という『不参加』は、全体の6割を超えている。

【経年変化】

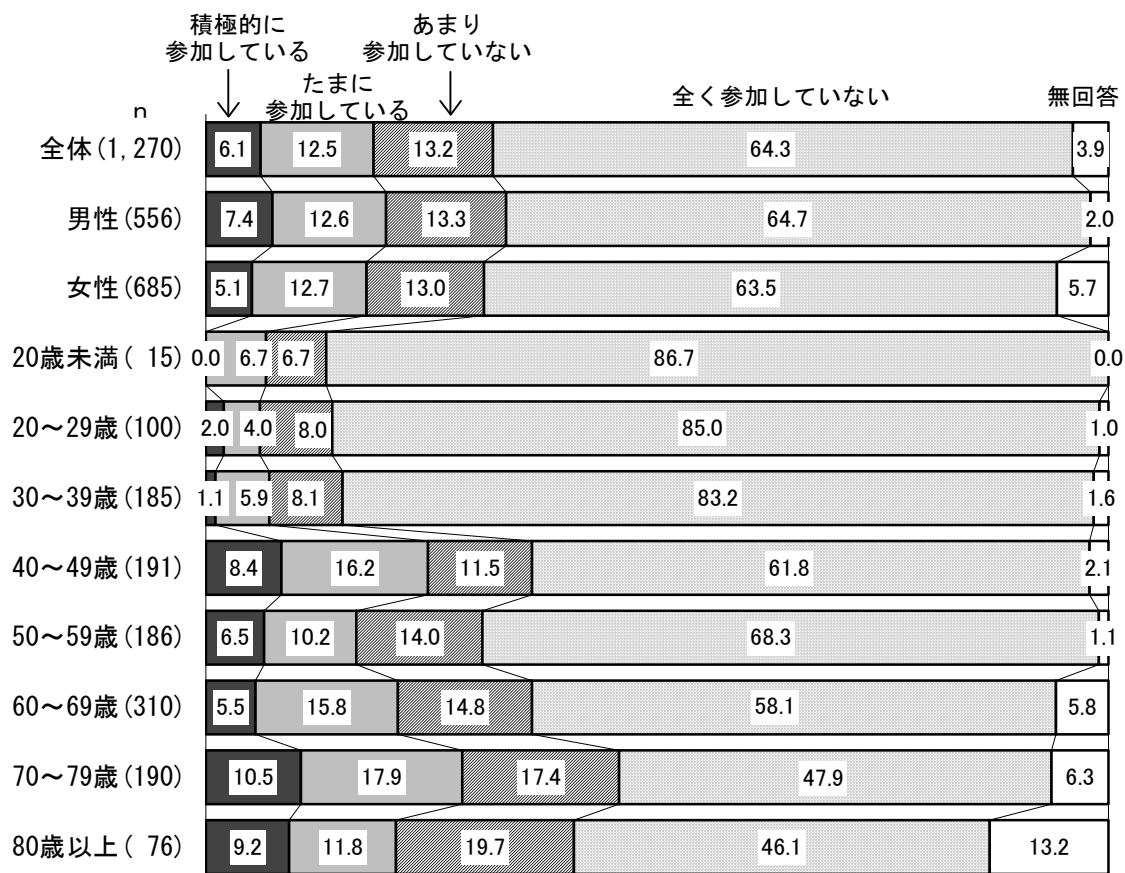
新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、「積極的に参加している」、「たまに参加している」「あまり参加していない」を合わせた『参加』との回答が、39歳以下では、いずれも2割以下と低くなっているのに対し、40歳以上では、3割以上と高くなっている。

図9-3-2 地域の防犯活動—性別、年齢別

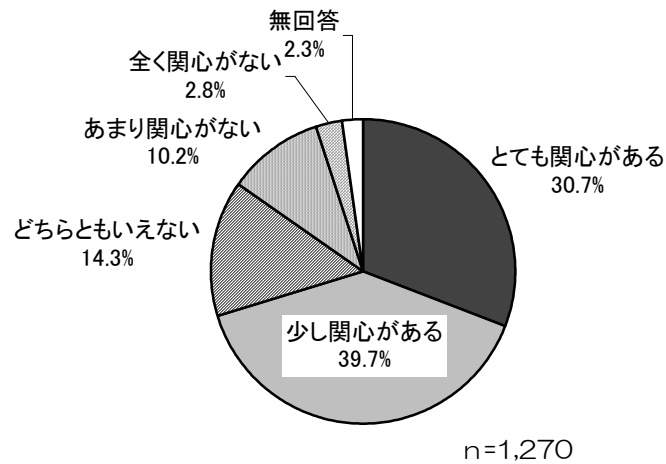


単位：%

(4) セーフコミュニティの考え方 (A: 問 18)

問. 厚木市は、平成 22 年 11 月 19 日にWHO（世界保健機関）が推進しているセーフコミュニティの認証を取得しました。今後も、市民と行政が協働して交通安全や防犯、けがの予防など、安心・安全なまちづくりを推進するという考え方に関心がありますか。（1つだけ）

図9-4-1 セーフコミュニティの考え方



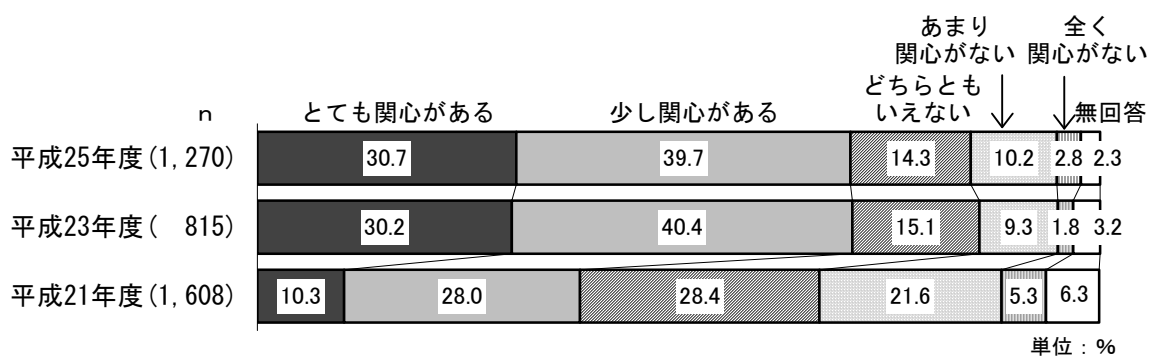
【全体】

セーフコミュニティの考え方について聞いたところ、「とても関心がある」(30.7%)と「少し関心がある」(39.7%)を合わせた『関心がある』(70.4%)が約7割となっている。一方、「あまり関心がない」(10.2%)と「全く関心がない」(2.8%)を合わせた『関心がない』(13.0%)は1割程度となっている。

【経年変化】

前回調査との比較では、大きな変化は見られない。

図9-4-2 セーフコミュニティの考え方—経年変化

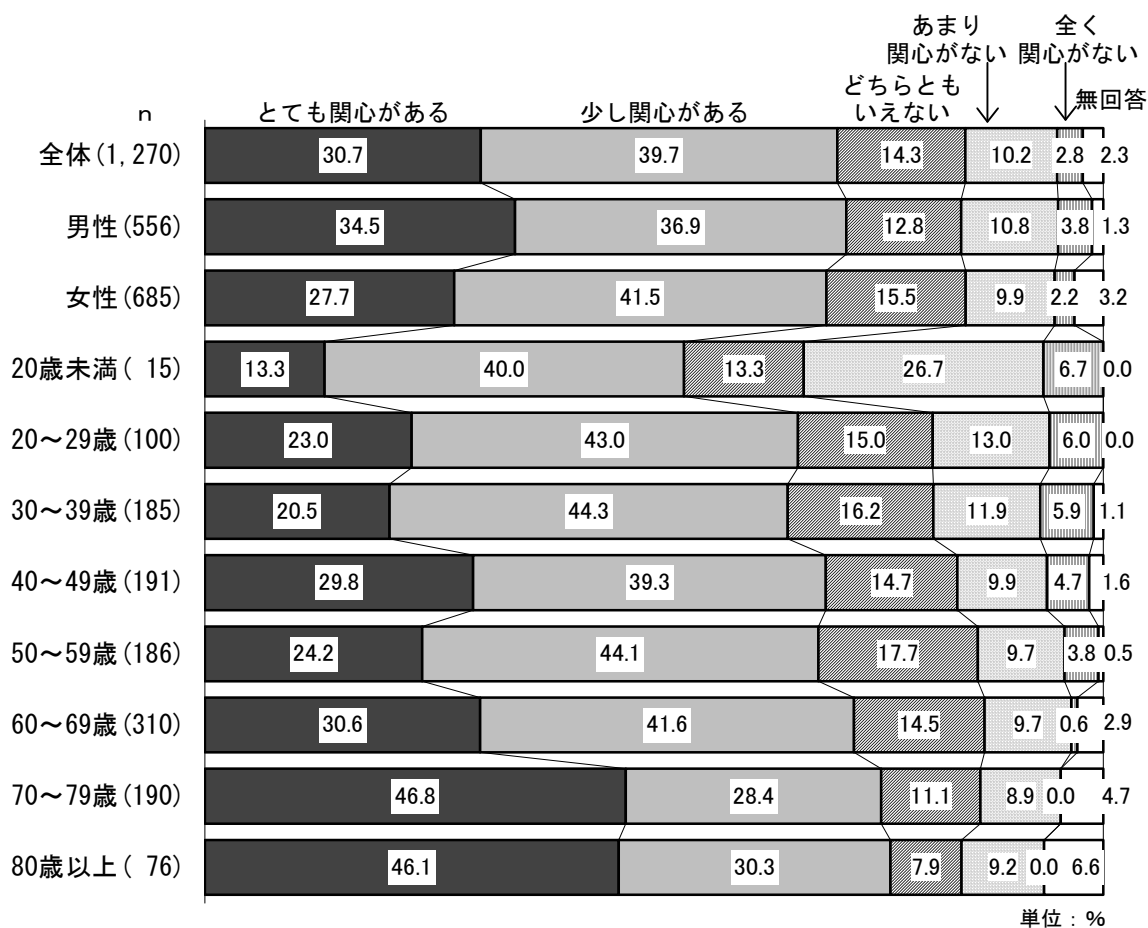


【属性別】

性別で見ると、「とても関心がある」については、男性が34.5%で女性より6.8ポイント高いが、『関心がある』を合わせて見ると、大きな差は見られない。

年齢別で見ると、70歳代以上で「とても関心がある」との回答が、4割を超えて高くなっている。

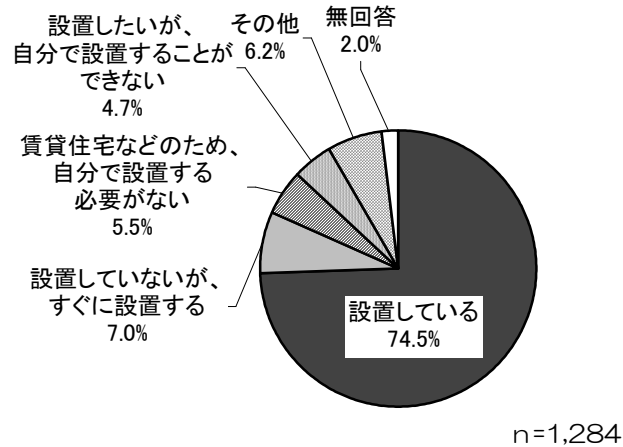
図9-4-3 セーフコミュニティの考え方—性別、年齢別



(5) 住宅用火災警報器の設置 (B: 問 10)

問. 全ての住宅へ住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。あなたの家には、住宅用火災警報器が寝室、階段に設置されていますか。(1つだけ)

図9-5-1 住宅用火災警報器の設置



【全体】

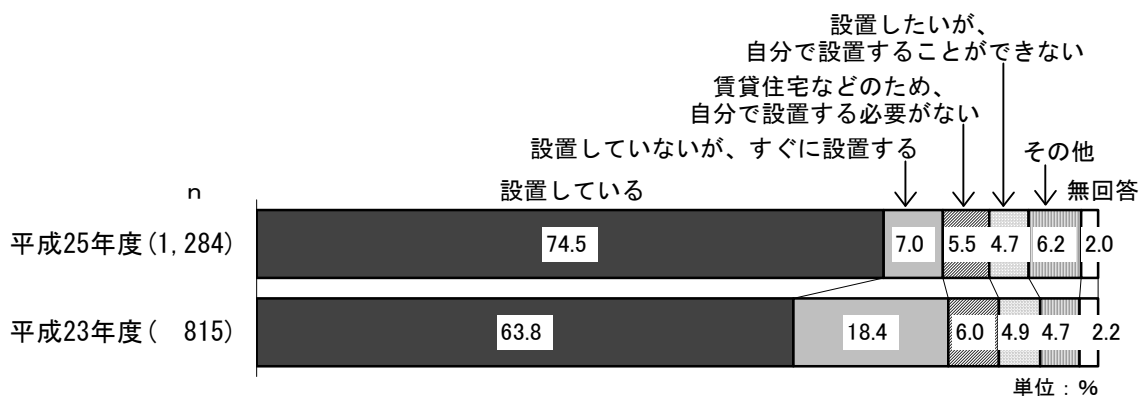
住宅用火災警報器の設置について聞いたところ、「設置している」(74.5%)が7割を超え最も高くなっている。

「設置していないが、すぐに設置する」(7.0%)、「賃貸住宅などのため、自分で設置する必要がない」(5.5%)、「設置したいが、自分で設置することができない」(4.7%)はそれぞれ1割未満となっている。

【経年変化】

前回調査との比較では「設置している」との回答が、10.7ポイント増加している。

図9-5-2 住宅用火災警報器の設置—経年変化

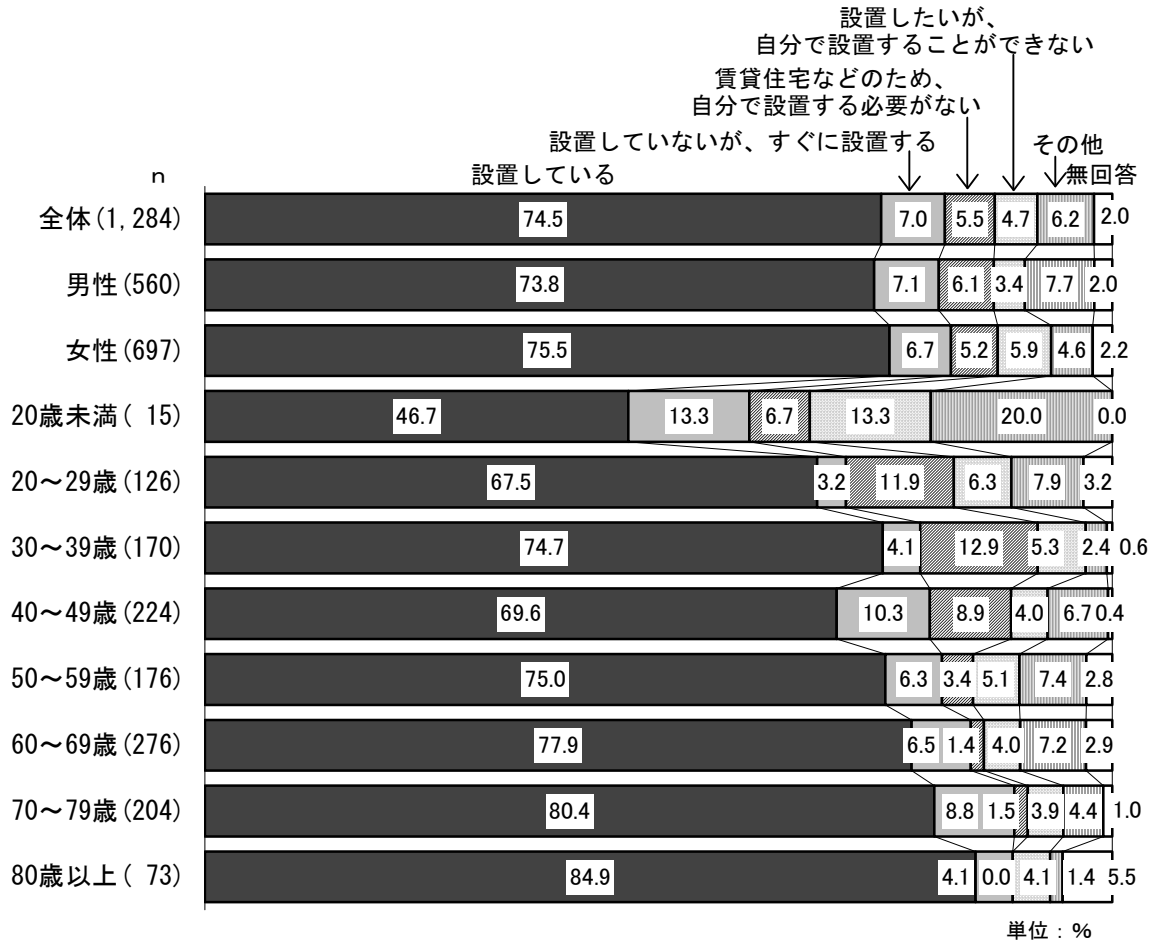


【属性別】

性別で見ると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

年齢別で見ると、おおむね、年齢が上がるにつれて「設置している」との回答が増える傾向にある。また、20～39歳では「賃貸住宅などのため、自宅で設置する必要がない」との回答が1割台と高くなっている。

図9-5-3 住宅用火災警報器の設置—性別、年齢別

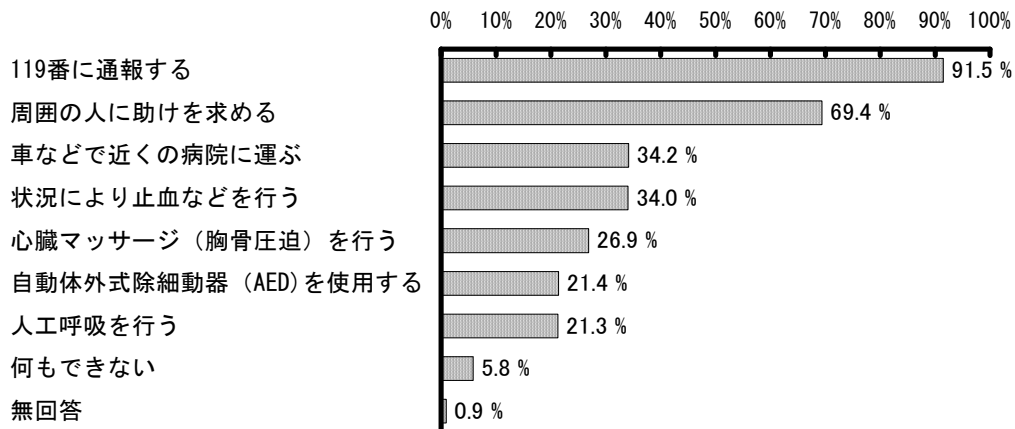


(6) 実行可能な応急手当 (B: 問 11)

問. 救急車が到着するまでの間の応急手当では、傷病者の生存率を高めるためにとっても重要であり、そのための知識も必要とされています。あなたは、次の応急手当のうち、いざという時に実行できるものはどれですか。(該当するものを全て)

図9-6-1 実行可能な応急手当

n=1,284



【全体】

実行できる応急手当について聞いたところ、「119番に通報する」(91.5%)が最も高く、次いで「周囲の人に助けを求める」(69.4%)の2項目が全体の半数を超えている。その他では「車などで近くの病院に運ぶ」(34.2%)、「状況により止血などを行う」(34.0%)などが続いている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「周囲の人に助けを求める」（73.9％）は、男性よりも 10.5 ポイント高くなっている。男性では「車などで近くの病院に運ぶ」（39.1％）で 8.5 ポイント、「人工呼吸を行う」（25.5％）で 8.0 ポイント、「心臓マッサージ（胸骨圧迫）を行う」（30.7％）で 7.2 ポイントそれぞれ女性より高くなっている。

年齢別で見ると、「周囲の人に助けを求める」との回答は、おおよそ年齢が低くなるにつれて高くなる傾向にあり、また、20～49 歳では「心臓マッサージ（胸骨圧迫）を行う」、「状況により止血などを行う」、「自動体外式除細動器（AED）を使用する」の 3 項目で高い傾向にある。30～59 歳では「車などで近くの病院に運ぶ」との回答が、4 割を超えて高くなっている。

表9-6-1 実行可能な応急手当—性別、年齢別

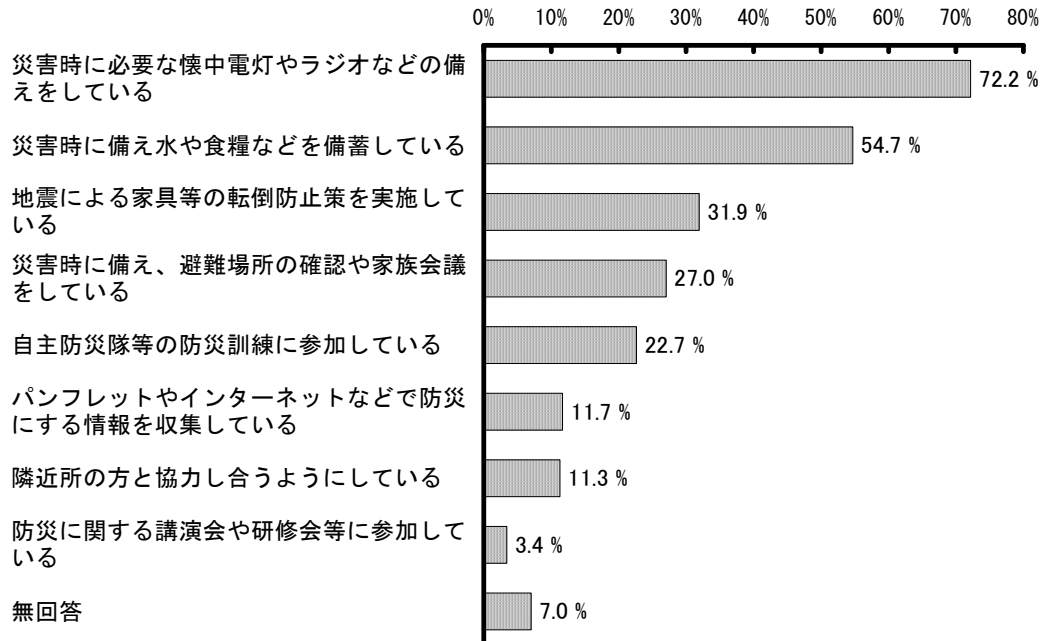
(単位：％)	何もできない	119番に通報する	周囲の人に助けを求める	状況により止血などを行う	人工呼吸を行う	心臓マッサージ（胸骨圧迫）を行う	自動体外式除細動器（AED）を使用する	車などで近くの病院に運ぶ	無回答
全体 (n=1,284)	5.8	91.5	69.4	34.0	21.3	26.9	21.4	34.2	0.9
男性 (n=560)	5.7	91.1	63.4	35.7	25.5	30.7	22.3	39.1	1.3
女性 (n=697)	5.9	92.3	73.9	33.0	17.5	23.5	20.7	30.6	0.7
20歳未満 (n=15)	13.3	93.3	93.3	20.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0
20～29歳 (n=126)	1.6	96.0	83.3	40.5	27.8	36.5	38.1	31.7	1.6
30～39歳 (n=170)	2.9	96.5	83.5	38.2	27.1	35.3	30.0	42.4	0.0
40～49歳 (n=224)	3.1	94.2	79.5	43.3	28.1	32.6	29.5	46.4	0.4
50～59歳 (n=176)	6.3	89.8	62.5	32.4	22.7	27.8	23.3	44.9	0.6
60～69歳 (n=276)	5.8	88.8	67.0	35.1	17.0	23.9	12.7	28.3	1.1
70～79歳 (n=204)	10.3	90.7	52.5	24.5	11.8	15.7	9.8	23.5	1.0
80歳以上 (n=73)	15.1	80.8	43.8	12.3	11.0	11.0	1.4	13.7	2.7

(7) 家庭で行っている災害対策 (B: 問 12)

問. 大規模地震災害等に備え、家庭で行っている対策はどのようなものですか。(該当するものを全て)

図9-7-1 家庭で行っている災害対策

n=1,284



【全体】

家庭で行っている災害対策について聞いたところ、「災害時に必要な懐中電灯やラジオなどの備えをしている」(72.2%)との回答が最も高く、次いで「災害時に備え水や食料などを備蓄している」(54.7%)と、災害用品の備えについての回答が上位を占めた。

次いで、「地震による家具等の転倒防止策を実施している」(31.9%)、「災害時に備え、避難場所の確認や家族会議をしている」(27.0%)となっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

【属性別】

性別で見ると、女性では「災害時に備え、避難場所の確認や家族会議をしている」(31.6%)で男性よりも9.8ポイント高く、次いで「地震による家具等の転倒防止策を実施している」(34.7%)、「災害時に必要な懐中電灯やラジオなどの備えをしている」(74.6%)、「災害時に備え水や食糧などを備蓄している」(57.1%)で、それぞれ男性よりも高くなっている。

男性は「自主防災隊等の防災訓練に参加している」(27.0%)が、女性より7.5ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「自主防災隊等の防災訓練に参加している」との回答は、70歳代で4割と最も高くなっている。

20歳代は、「災害時に備え水や食糧などを備蓄している」(44.4%)、「災害時に必要な懐中電灯やラジオなどの備えをしている」(51.6%)といった回答が、ほかの年齢層に比べて低い結果となっている。

表9-7-1 家庭で行っている災害対策—性別、年齢別

(単位：%)	自主防災隊等の 防災訓練に参加している	災害時に備え 水や食糧などを備蓄している	災害時に必要な 懐中電灯やラジオなどの 備えをしている	防災に関する講演会や 研修会等に参加している	地震による家具等の 転倒防止策を実施している	避難場所の確認や 家族会議をしている	災害時に備え、 避難場所の確認や 家族会議をしている	隣近所の方と 協力し合うようにしている	防災に関する情報を収集している インターネットなどで	パンフレットや	無回答
全体 (n=1,284)	22.7	54.7	72.2	3.4	31.9	27.0	11.3	11.7	7.0		
男性 (n=560)	27.0	52.1	68.9	4.8	28.9	21.8	11.4	13.4	7.9		
女性 (n=697)	19.5	57.1	74.6	2.4	34.7	31.6	11.2	10.6	6.5		
20歳未満 (n=15)	13.3	53.3	73.3	0.0	33.3	26.7	6.7	0.0	13.3		
20～29歳 (n=126)	11.1	44.4	51.6	4.0	31.7	31.0	7.1	11.9	17.5		
30～39歳 (n=170)	8.2	51.2	68.2	0.6	34.1	25.9	5.3	11.8	9.4		
40～49歳 (n=224)	15.6	62.9	73.2	3.1	29.9	30.8	6.7	14.3	5.4		
50～59歳 (n=176)	15.9	54.5	75.6	3.4	30.1	27.8	10.8	12.5	4.5		
60～69歳 (n=276)	34.1	59.4	78.3	4.0	34.4	26.4	12.7	10.1	4.0		
70～79歳 (n=204)	40.2	53.4	77.0	5.9	30.9	24.0	17.2	13.7	4.4		
80歳以上 (n=73)	27.4	45.2	68.5	2.7	34.2	20.5	26.0	5.5	11.0		

居住地区別の結果

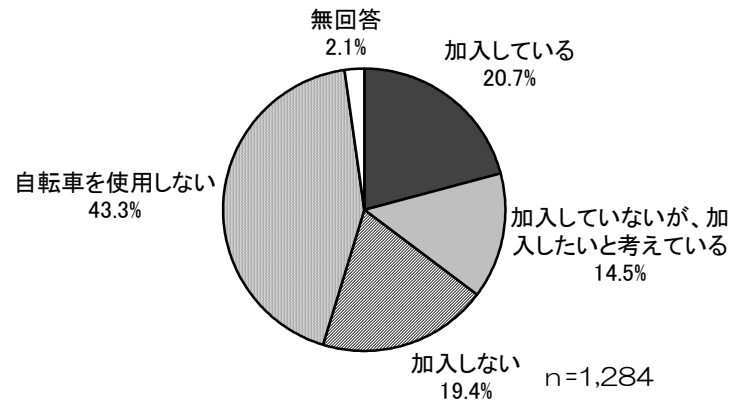
表9-7-2 家庭で行っている災害対策—居住地区別

(単位：%)	自主防災隊等の 防災訓練に参加している	災害時に備え 水や食糧などを備蓄している	災害時に必要な 懐中電灯やラジオなどの 備えをしている	防災に関する講演会や 研修会等に参加している	地震による家具等の 転倒防止策を実施している	災害時に備え、 避難場所の確認や 家族会議をしている	隣近所の方と 協力し合うようにしている	パンフレットや インターネットなどで 防災に関する情報を収集している	無回答
全体 (n=1,284)	22.7	54.7	72.2	3.4	31.9	27.0	11.3	11.7	7.0
厚木北 (n=156)	13.5	59.0	72.4	3.8	37.2	28.8	9.0	10.3	7.1
厚木南 (n= 80)	13.8	50.0	73.8	5.0	36.3	22.5	15.0	10.0	8.8
依知北 (n= 93)	24.7	47.3	63.4	1.1	21.5	31.2	14.0	11.8	8.6
依知南 (n= 54)	35.2	61.1	85.2	1.9	25.9	35.2	24.1	13.0	1.9
睦合北 (n= 47)	12.8	51.1	72.3	2.1	25.5	21.3	10.6	10.6	8.5
睦合南 (n= 98)	22.4	54.1	69.4	4.1	31.6	24.5	11.2	10.2	7.1
睦合西 (n= 57)	24.6	59.6	73.7	7.0	33.3	28.1	7.0	15.8	7.0
荻野 (n=178)	29.2	54.5	73.0	2.2	33.1	24.7	12.9	13.5	7.9
小鮎 (n= 75)	29.3	60.0	80.0	5.3	33.3	26.7	13.3	10.7	6.7
南毛利 (n=198)	18.7	54.0	70.7	4.5	34.8	29.3	8.1	12.1	6.1
南毛利南(n=58)	19.0	62.1	74.1	1.7	25.9	22.4	6.9	20.7	6.9
玉川 (n= 23)	60.9	56.5	78.3	13.0	39.1	30.4	13.0	13.0	0.0
相川 (n= 66)	19.7	47.0	65.2	0.0	30.3	30.3	9.1	6.1	13.6
緑ヶ丘 (n= 33)	27.3	54.5	60.6	0.0	30.3	33.3	12.1	3.0	9.1
森の里 (n= 46)	26.1	54.3	73.9	4.3	34.8	15.2	8.7	13.0	2.2

(8) 自転車保険への加入 (B: 問 13)

問. 自転車事故を対象にした保険等に加入していますか。(1つだけ)

図9-8-1 自転車保険への加入



【全体】

自転車保険への加入について聞いたところ、「自転車を使用しない」(43.3%)との回答が最も高くなっている。次いで、「加入している」(20.7%)、「加入しない」(19.4%)、「加入していないが、加入したいと考えている」(14.5%)となっている。

【経年変化】

新規設問のため、経年変化は掲載していない。

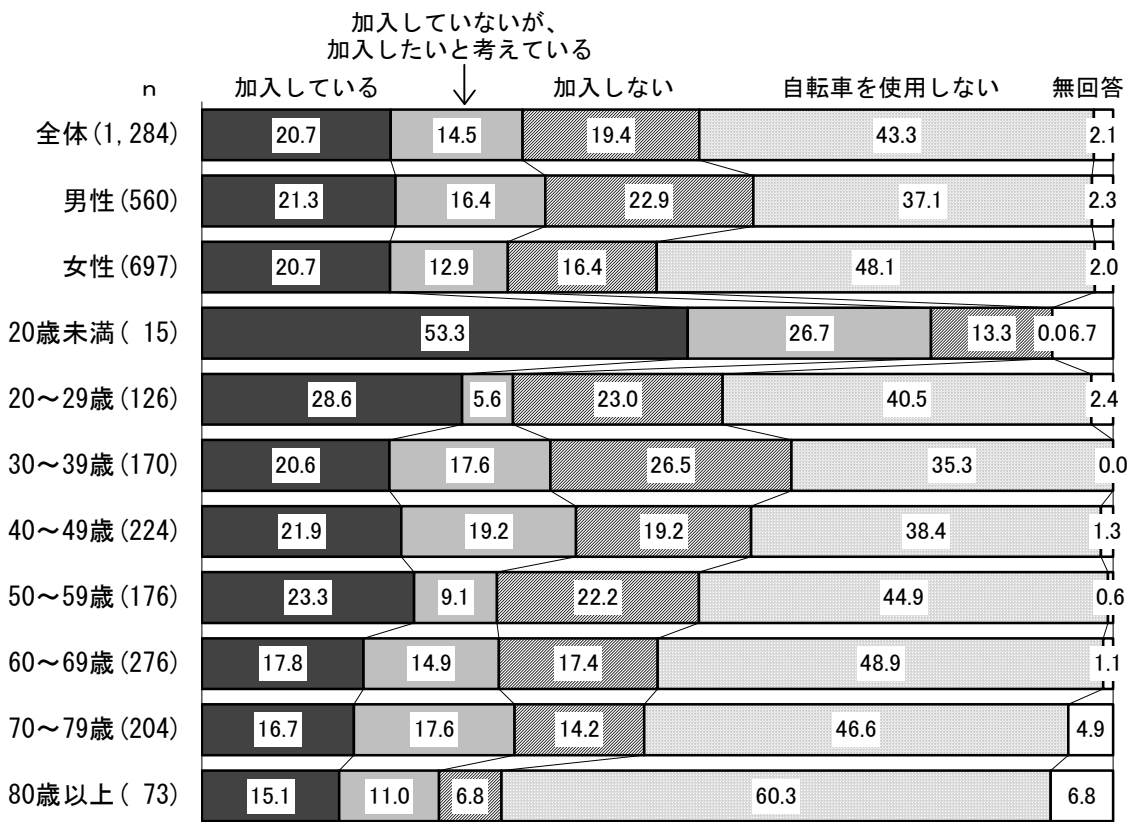
【属性別】

性別で見ると、女性では「自転車を使用しない」（48.1％）が、男性よりも 11.0 ポイント高いのに対し、男性では「加入しない」（22.9％）が、6.5 ポイント女性よりも高くなっている。

年齢別で見ると、「自転車を使用しない」との回答は、おおむね年代が上がるごとに高くなる傾向にあり、80 歳以上（60.3％）では、6 割を超えている。

「加入している」または「加入していないが、加入したいと考えている」を合わせた『加入に前向きである』は、20～79 歳の広い年齢層で 3 割以上となっており、40 歳代（41.1％）で最も高くなっている。

図9-8-2 自転車保険への加入—性別、年齢別



単位：％